

産業社会と企業 ④～⑤ 経済発展の諸要因（２）精神と制度

【テーマ】

- ①なぜ精神と制度に注目する必要があるのか？
- ②市場経済化への道を切り開いた精神とはなにか？
- ③どのような制度が市場の拡大を可能にするのか？

【１】スミス『国富論』と『道徳感情論』

①「個人は一般に公共の利益を推進しようと意図してもしない…（略）…個人はこの場合にも、他の多くの場合と同様に、見えざる手に導かれて、自分の意図の中には全くなかった目的を推進する…（略）…自分自身の利益を追求することによって、個人はしばしば、社会の利益を、実際にそれを促進しようと意図する場合よりも効果的に推進する」

②「富と名誉と高い地位をめざしておこなわれる競争において、かれはすべての競争相手を追い抜くために、できるかぎり懸命に走ってよいし、あらゆる神経、あらゆる筋肉を緊張させてよい。しかし、かれがもし競争相手の誰かを乱暴におしのけたり投げ倒したりするならば、観察者の大目に見る態度はそこで完全に終わってしまう。それは（ ）の侵犯であって、観察者の許すことのできないものなのだ。」

【２】精神と経済発展

ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1905）

（１）近代資本主義

（２）資本主義の精神

③「（工場の内部では）端的に高度の責任感が必要であるばかりか、少なくとも勤務時間の間は、どうすればできるだけ楽に、できるだけ働かないで、しかもふだんと同じ賃金がとれるか、などということを絶えず考えたりするのではなくて、あたかも労働が絶対的な自己目的—『天職』（Beruf）—であるかのように励むという心情が一般に必要となるからだ。しかしこうした心情は、決して人間が生まれつきもっているものではない。また、高賃金や低賃金という操作で直接作り出

すことができるものでもなくて、むしろ、長年月の教育の結果として生れてくる」

(3) プロテスタンティズム

④「世俗的職業の内部における義務の遂行を、およそ道徳的実践のもちうる最高の内容として重要視した……その必然の結果として、世俗的日常労働に宗教的意義を認める思想を生み、そうした意味での天職 (Beruf) という概念を最初に作り出したのだった。……修道士の禁欲を世俗的道徳よりも高く考えたりするのでなく、神によるこぼれる生活を営むための手段はただ一つ、各人の生活上の地位から生じる世俗内的義務の遂行であって、これこそが神から与えられた『召命』 (Beruf) にほかならぬ、と考えるというものだった。」

(4) 禁欲を通じた資本形成

⑤「禁欲は旧約聖書と同様、また『善き行為』の倫理的評価からの類推でもって、富を目的として追求することを邪悪の極致としながらも、職業労働の結果として富を獲得することは神の恩恵だと考えたからだ。そればかりではない。これはもっと重要な点なのだが、たゆみない不断の組織的な世俗的職業労働を、およそ最高の禁欲的手段として、また同時に、再生者とその信仰の正しさに関するもっとも確実かつ明白な証明として、宗教的に尊重することは、われわれがいままで資本主義の『精神』とよんできたあの人生観の蔓延にとってこの上もなく強力な槓杆とならずにはいなかったのだ。そして、さきに述べた消費の圧殺とこうした営利の解放とを一つに結びつけてみるならば、その外面的結果はおのずから明らかとなる。すなわち、禁欲的節約強制による資本形成がそれだ。利得したものの消費的使用を阻止することは、まさしく、その生産的利用を、つまりは投下資本としての使用を促さずにはいなかった。」

(5) 現代における資本主義の精神

⑥「現在の資本主義が存続しうるための条件として、その個々の担い手たち、たとえば近代資本主義的経営の企業家や労働者たちがそうした倫理的原則を主体的に習得していなければならぬ、ということでもない。今日の資本主義的経済組織は既成の巨大な秩序界であって、個々人は生まれながらにしてその中に入りこむのだし、個々人 (少なくともばらばらな個人としての) にとっては事実上、その中で生きねばならぬ変革しがたい鉄の檻として与えられているものなのだ。誰であれ市場と関連をもつかぎり、この秩序界は彼の経済行為に対して一定の規範を押しつける。製造業者は長期間この規範に反して行動すれば、必ず経済的淘汰を受けねばならないし、労働者もこの規範に適応できず、あるいは適応しようとしていない場合には、必ず失業者として街頭に投げ出されるだろう。このように、経済生活の全面を支配するにいたった今日の資本主義は、経済的淘汰によって、自分が必要とする経済主体—企業家と労働者—を教育し、作り出していく。」

バーデンにおける教徒別資本額
(1895年、単位：マルク)

プロテスタント	954,060
カトリック信徒	589,000
ユダヤ人	4,000,000

註) それぞれ 1,000 人あたりの資本収益税の課税対象となる資本額

バーデンにおける義務教育に属しない学校の
生徒たちの信仰種別 (1885-91年、%)

	プロテスタント	カトリック信徒	ユダヤ人
高等学校	43	46	9.5
実業高等学校	69	31	9
高等実業学校	52	41	7
実業学校	49	40	11
高等小学校	51	37	12
平均	48	42	10
※対総人口比	37.0	61.3	1.5

【3】制度と経済発展

1. お互いに監視する

(1) 18世紀の日本

塩問屋定法 (1741) 「塩代銀不埒之仁有之候はば問屋中申合一切商売致間敷候」

桐生七組毛綿仲間 (1816) 「職方内に不法之義仕候者有之候はば七組一統申合右之仁へは染地遣し不申」

(2) 21世紀のバングラディッシュ

2. 近代国家の登場とその役割

※関連文献

- ①堂目卓生 (2008) 『アダム・スミス』 中公新書 (再掲)
 - ・経済学の父、アダム・スミスに関する平易かつ本格的な入門書。『国富論』とならぶ主著『道徳感情論』に注目することで、彼の全体像を浮き彫りにした。

- ②ヴェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 岩波文庫
- ③ベラー 『徳川時代の宗教』 岩波文庫
 - ・日本の経済発展の背景として心学という江戸時代の一宗教に注目している

- ④岡崎哲二 (1999) 『江戸の市場経済』 (講談社選書メチエ)
 - ・株仲間の機能が江戸時代の市場を成長させたと主張。議論に大まかな部分もあるが、読みやすく、面白い。

- ⑤ムハマド・ユヌス (1998) 『ムハマド・ユヌス自伝』 早川書房
- ⑥菅正広 (2009) 『マイクロファイナンス』 中公新書
 - ・⑤はグラミン銀行創設者の自伝。⑥はマイクロファイナンス全般についての概説書。

- ⑦ダグラス・ノース (2013) 『経済史の構造と変化』 日経 BP 社
 - ・なぜ西欧が最初に市場経済化をなしとげたのか？ 国家の役割に注目してこの問いに答えたのがノースである。そのノースが描く通史的読み物。